

優秀賞

プリンス電機株式会社

冷凍・冷蔵ショーケース用蛍光灯ランプをはじめとする施設・機器用照明専門メーカーのプリンス電機では、自社の事業内容を活かし、「あかり」をテーマに小中学生を対象とする環境学習を実施。身近なことに対する興味から、環境への関心、行動への展開を促している。

●「あかり」をテーマに環境学習を実施

プリンス電機では、「未来の担い手、子供たちへ『あかりの環境学習』」として、地元である横浜市の市立小学校での出前講座と環境展示会での教育活動を行っている。

このプログラムでは、地球温暖化防止といったグローバルな視点から学習を進めていくのではなく、子供たちにとっても身近な「あかり」に対する興味を喚起し、これをベースに日常生活の中での物の選び方や買い方（グリーン購入）、使い方を学び、生活と地球温暖化との関係を理解することにより、具体的な行動のきっかけをつくることを目的としている。

小学校への出前講座では、光の性質やしくみの理解、ほどよく明るくする工夫、暮らしの様々な場面の照明と環境配慮の関係などについて、実験、グループ作業、発表、解説などを組み合わせながら授業を進め、環境に配慮した住環境に適した照明の工夫や選び方を学んでいく。

また、電球（白熱灯）vs 電球型蛍光灯ランプ、一般蛍光灯ランプ vs 省ライン（Hf）蛍光灯ランプ、といった比較による「グリーン購入バトル」を通じて、シンプル化したLCAについて学ぶ機会を設けている。さらに、自分たちができることを考え、周りの人に環境に配慮した行動の輪を広げるための意識づけを行っていく。



横浜市の市立小学校での出前講座

●学校の授業に即したプログラムを提供

出前講座の検討にあたっては、文部科学省の学習指導要領を踏まえ、家庭科のカリキュラム（住環境・採光・明るさ・だんらん等の単元）に即して、90分（2時限）の授業として導入できる構成にした。また、同社の事業活動を踏まえた経験や情報、照明士や照明コンサルタントのテキスト、インテリアコーディネーターのハンドブックなどを参考にしながら、授業の内容を検討した。講座の実施に際しては各学校の担当の教師と事前に打合せを行い、それぞれのニーズを反映した授業を進めるよう配慮している。

2007年度のプログラム開始から2009年9月までに、9校684名の児童が出前講座の授業を受けた。子供たちの感想文や教師たちの手紙からは、自分たちの生活と地球温暖化のつながりの理解、環境問題に対する意識の変化など、教育の効果がうかがえる。

●環境展示会で実験・体験型教育を実施

同社では、出前講座の内容をベースにした小中学生向けの環境学習プログラム「実験・体験！ 蛍光灯でダイエット！ CO₂ ↓」を、環境展示会「エコプロダクツ2007」および「エコプロダクツ2008」において実施した。

このプログラムは、参加者が「どうして？ チャレンジシート」を持って、5つの「どうして？」に関するクイズに答えながら、照明の環境配慮ポイントやLCA的視点を学ぶ内容になっている。「エコプロダクツ2008」では、3日間で497人が参加した。

自社の事業活動や製品を有効に活用し、生活と環境問題の関係をわかりやすく示すとともに、グリーン購入を

はじめとする具体的な行動に結びつく教育として、プリンス電機の取り組みは他の企業にとっても参考になるものだとはいえる。



「エコプロダクツ展」での環境学習